

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 4 巻第 16 号

第 16 週( 4 月 12 日 ~ 4 月 18 日)

発行年月日:平成16年(2004年) 4月 23日

発行 行 :滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

### 1)全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (16週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀 (16週)	全国 (16週)	滋賀	全国 <sup>(*)</sup>
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	4	116	7	459
	腸チフス	0	1	11	0	60
	パラチフス	0	0	9	0	38
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	180	8	2635
4類感染症	エキノコックス症	0	0	10	0	17
	オウム病	0	0	9	1	44
	ツツガムシ病	0	0	57	2	380
	レジオネラ症	0	0	25	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	3	163	3	504
	ウイルス性肝炎	0	1	77	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	49	3	115
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	16	0	52
	後天性免疫不全症候群	0	1	271	8	949
	梅毒	0	2	131	2	493
	破傷風	0	0	14	1	69
	急性脳炎	0	0	9	0	98

(\*1)平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

### 2)定点把握の対象となる5類感染症

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								前週との比較(定点当たり患者数)
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	0.22	0	0.30	0	0.13	1.00	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.03	0.14	0	0	0	0	0	0	
A群溶連菌咽頭炎	0.61	0.29	0.50	0.25	2.00	0.25	0.20	1.00	
感染性胃腸炎	7.12	12.86	12.50	4.00	4.60	6.00	1.00	1.00	
水痘	1.21	1.71	0.83	0.25	2.20	1.25	1.00	0.50	
手足口病	0.09	0	0.17	0	0	0	0	1.00	
伝染性紅斑	0.24	0.57	0.50	0.25	0	0	0	0	
突発性発疹	0.70	1.14	1.67	0	0	0	0.20	2.00	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風疹	0.12	0.43	0.17	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.24	0.43	0.17	0	0	0	0.80	0	
麻疹	0.03	0	0	0	0.20	0	0	0	
流行性耳下腺炎	0.39	0.57	0.50	0.50	0.20	0	0.60	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.57	0	2.00	0	2.00	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

0 2 4 6 8  
定点当たり患者数

### 3) 今週のトピックス

#### 感染性胃腸炎の発生に地域的な偏り 全国における風しんの発生状況

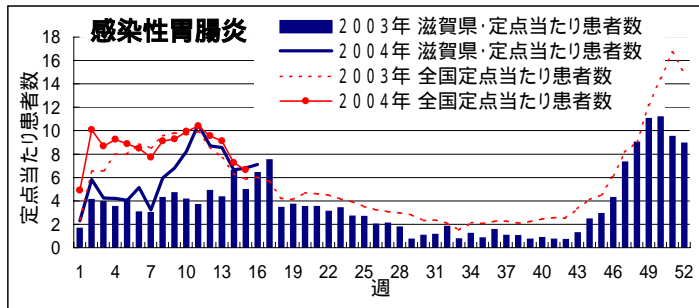
定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(4月5日～4月11日)の報告数よりやや多くなっています。感染性胃腸炎、突発性発疹、風疹等の発生は先週より増加し、インフルエンザ、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎等の発生は先週より減少しています。

**インフルエンザ**については、第6週の定点当たり患者数(35.55)をピークに減少傾向を示し、第16週の定点当たり患者数は0.22となりほぼ終息に近づいています。

**感染性胃腸炎**については、先週の定点当たり患者数より増加し7.12となり、**大津、草津保健所**管内では、それぞれ、12.86、12.50と多くなっています。特に、大津保健所管内の保育園において感染性胃腸炎の集団発生がみられましたので、十分な手洗いをするなどの予防についての注意が必要です。

**風しん(三日はしか)**については、昨年同時期(第1週～第16週)の発生状況と比較すると今年はほぼ倍増しています。全国においても増加傾向を示しており、第13週(3月22日～3月28日)の定点当たり患者数は感染症法施行(1999年4月)以降の最高値を示しています。

#### 感染性胃腸炎の週別発生状況(平成15年第1週～平成16年第16週、H15.12.30～H16.4.18)



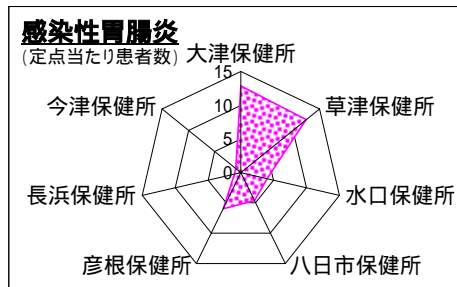
昨年と今年の発生状況についてみると全国における大きな違いはみられませんが、滋賀県においては第6週から第13週の発生状況に違いがみられます。この期間に幼稚園、小学校等において多発していた感染性胃腸炎の集団発生の影響が大きいと考えられます。

#### 感染性胃腸炎の保健所管内別発生状況

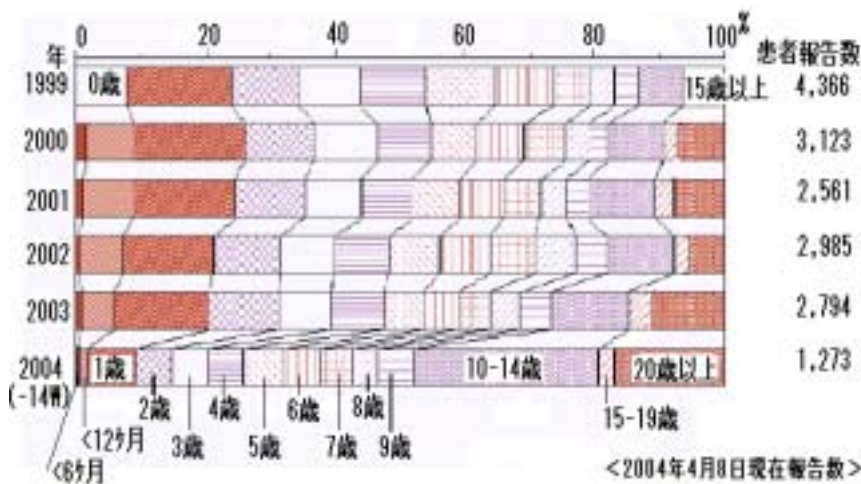
(平成16年第16週、H16.4.12～H16.4.18)

保健所管内別の発生状況についてみると、大津、草津保健所管内において多く発生しています。**流水で洗い残しのないように十分な手洗い**をすることが大事です。

十分な手洗い: 手のひらを洗う 手の甲を洗う  
指先、爪の間を洗う 指の間を洗う  
親指を洗う 手首を洗う

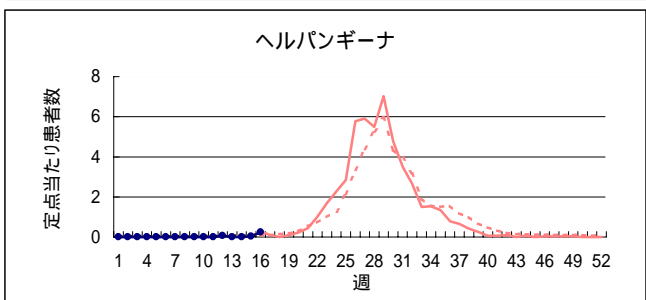
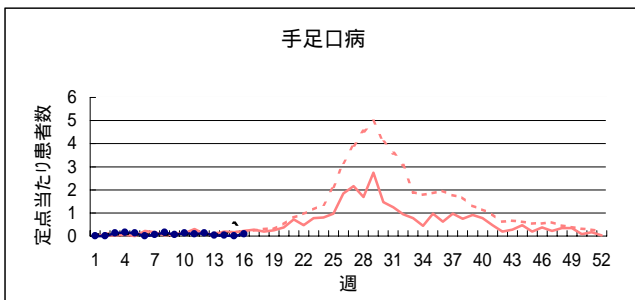
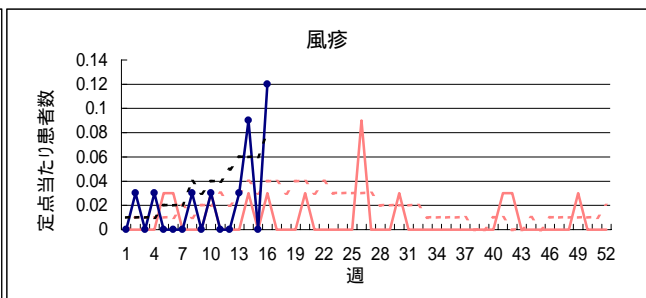
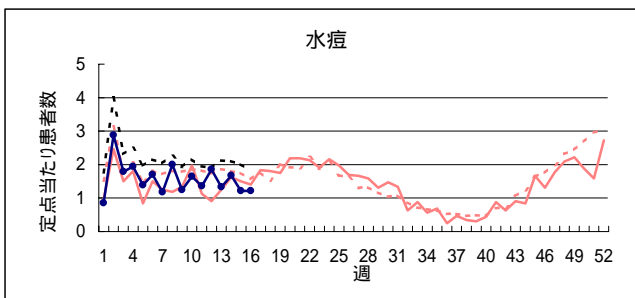
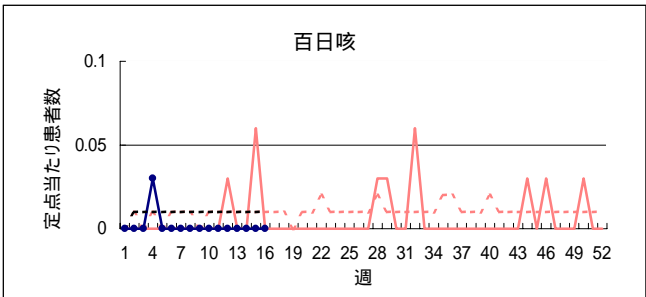
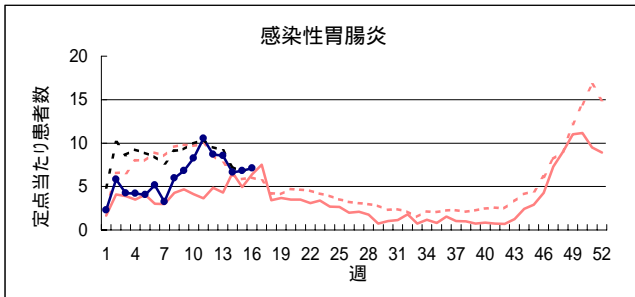
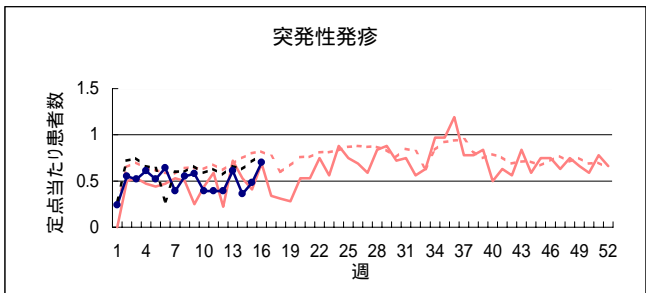
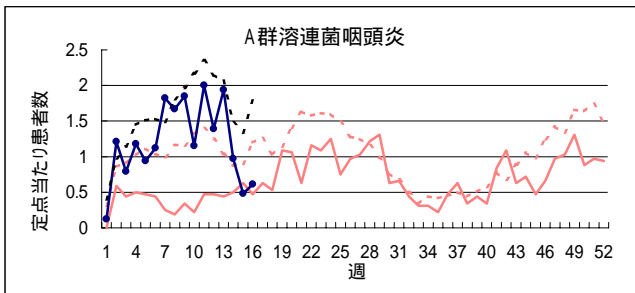
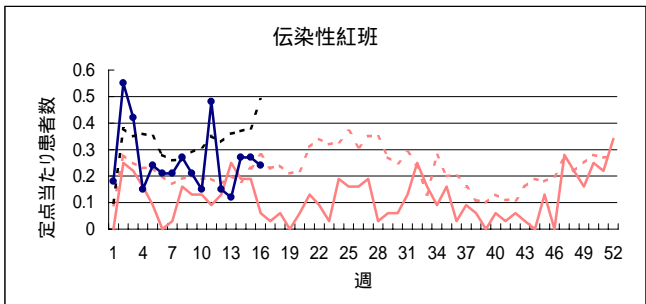
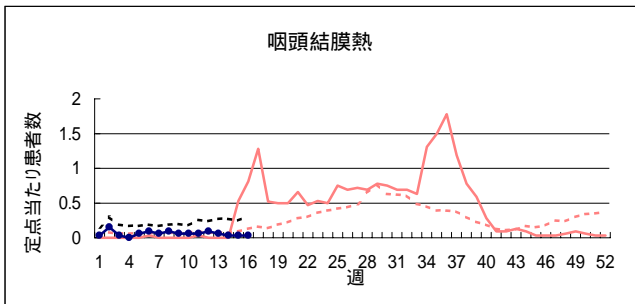
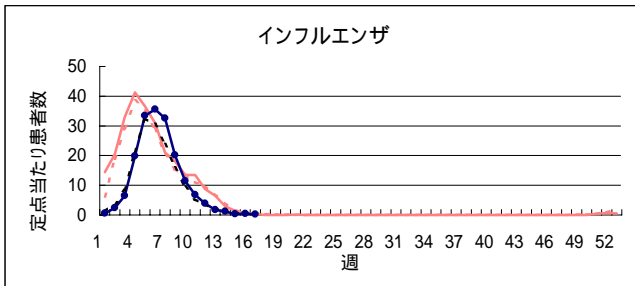


#### 風しんの年齢別発生状況(平成11年～平成16年第14週、全国)-iDWR2004年第6巻第14号 注目すべき感染症より-



風しんの年次別発生状況についてみると、数年間はかなり少ない患者報告数となっていますが、今年は増加傾向を示しています。特に、群馬県、大分県、鹿児島県、宮城県および埼玉県において増加しています。また、過去5年間の年齢別発生状況についてみると、今年は昨年に比べて、10～14歳および20歳以上で増加しており、特に、20歳以上については男性の割合が高くなっています。この理由としては、予防接種の対象者として女子中学生のみの時期があり、男性の予防接種率が低くなっているためと考えられます。

# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第16週、H15.12.29～H16.4.18)



# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第16週、H15.12.29～H16.4.18)

H15 [ 滋賀 ———— 全国 ..... ]      H16 [ 滋賀 ●——● 全国 ..... ]

